

創立120周年に向けて

この10月1日から、奈良教育大学の学長に再任となりました。任期は2年間です。第1期中期目標期間も半ばを過ぎ、次期中期目標期間の計画を検討するという重要な時期を迎えることとなりますが、よろしくお願いたします。

正倉院展の開幕とともに、奈良の深まる秋を迎えています。

本学恒例の大学祭も第59回を数え、間もなく始まるうとしています。本学の大学祭は『輝菟（きぼう）祭』と名付けられています。『輝菟祭』と呼ばれるようになったのは、昭和50年（第26回大学祭）からだそうですが、輝菟という造語は、「天平のかがやく菟千年の古へいまに」で始まる奈良教育大学の学歌の歌詞に拠っています。この学歌は、昭和43年（1968年）に本学の創立80周年を記念して制定さ

れたものです。今から約40年前のことですから、卒業生の多くの方々はこの学歌斉唱とともに巣立っていったことになりました。

このような歴史的なことに触れたのは、来年（2008年）には、本学が奈良県尋常師範学校の創立（明治21年／1888年）から数えて120周年という一つの区切りの年を迎えることになるからです（その起源は明治7年に設立された『寧楽書院』にまで遡ることができます）。

偶然ではありませんが、戦後の昭和24年、師範学校から新制大学となった奈良学芸大学（現在の教育大学）の設立から数えて約60年を迎えます。

本学は、師範学校での教員養成を60年間、大学における教員養成を60年間という永い道のりを歩んできたわけですが、教員養成大学としての新たな

飛躍と発展を期するため、来年秋を予定して記念事業を計画しています。改めてご案内を差し上げたいと思います。

120周年記念を意識したわけではありませんが、本学では、来年4月開設をめざして、高度専門職業人としての教員の養成に特化した教職大学院の設置を計画しています。さきほどの60年の繰り返しを思うと、大学院における本格的な教員養成・研修のスタートに立ったという予感がします。

現在、国立では15大学、私立では6大学が設置を申請していますが、『ならやま』本号が配布されるころには、設置申請の審査結果がわかることになっていきます。学校教育を支える教員の資質能力の向上に対する社会からの強い要請と期待にこたえるべく、各大学とも、地域との連携を深めた個性特色ある教育内容を準備していま

す（本学の教職大学院については本誌4・5頁をご覧ください）。

さて、法人化してから早くも3年半が経ちました。この間も、文部科学省からの施設整備のための予算配分を受けて古くなった建物の改修を進めています。どうしても講義棟・研究棟が先行するため、課外活動施設（サークル棟）などの整備が遅れていました。

国立大学法人への運営費交付金配分は相変わらず厳しい状況が続いているのですが、これまで3年間の様々な経費節減分を原資とした目的積立金の一部を取り崩して、懸案であった課外活動施設の整備（建替え）を本年度内に行うこととしました。昨年来、学生の皆さんとも相談をしながらの計画づくりでしたが、ようやく着工の運びとなります。学生の皆さんの課外教育活動の拠点として活用されることを願っています。



柳澤 保徳
奈良教育大学 学長